

“わたしのまち”

京成柴又駅前にある“寅さん”像。  
ふらりと観光したくなるまちだ

# 葛飾区

## 下町風情あふれる観光スポット、葛飾区柴又

「寅さん」でおなじみのまちをめぐる

映画『男はつらいよ』の「寅さん」でおなじみの葛飾区柴又は、柴又帝釈天を中心とする歴史的・文化的景観、江戸川や矢切の渡しといった水と緑あふれる風景、そして、参道の下町グルメなど、さまざまな魅力が凝縮されたまちです。最近では「葛飾柴又寅さん記念館」も観光スポットとして人気を集め、多くの人が訪れています。そんな下町情緒あふれるまち柴又の魅力にふれてみましょう。



### 古代から連続続く柴又の歴史

葛飾区柴又は、寅さんの故郷として知られています。寅さんが産湯をつかった御神水のある柴又帝釈天題経寺は、寛永六年（1629年）の創建といわれている日蓮宗の寺院です。

安永八年（1799年）に行方不明となっていた日蓮上人自刻と伝わる板本尊が屋根裏から発見され、その日が庚申であったことから庚申の日を縁日と定められ、江戸市中の庚申信仰の流行もあって、多くの参拝客が訪れるようになりました。その後、柴又のまち並みが形成されていきます。

最近の調査では、柴又は帝釈天題経

### 「柴又帝釈天」「寅さん」のまち、柴又

寺が創建される以前の古代から開発されていた古い歴史が刻まれているところであることがわかってきました。奈良正倉院に伝わる「養老五年（721年）下総国葛飾郡大嶋郷戸籍」の「嶋俣里」の故地であり、さらに柴又の鎮守八幡神社には六世紀末から七世紀初めの前方後円墳が確認されています。

### 映画『男はつらいよ』 大人気の寅さん

さらに、柴又のまちを有名にしたのは、山田洋次監督の映画『男はつらいよ』です。まちの玄関口の京成柴又駅には俳優の故渥美清さんが演じる車寅次郎こと寅さんの像が観光客を出迎え



まちのシンボルでもある柴又帝釈天

てくれます。

監督の山田洋次さんは寅さんの故郷が柴又になった理由として、葛飾区在

## 柴又のまちの魅力

### まちの見どころ

#### ◆参道のお店

京成柴又駅から帝釈天の参道まで、多くの下町グルメスポットがあります。映画でもなじみの深い草団子は、参道にある6店舗がそれぞれ特徴を出し販売しています。

また、山田洋次監督や渥美清さんも大好きな天井の店も参道にあります。手焼きせんべい、つくだ煮、せき止め飴といった昔ながらの手作りの品を並べる店のほか、江戸川に近い立地か

住の作家、早乙女勝元さんに連れられて柴又帝釈天を訪れたことがきっかけで柴又を知り、柴又という土地名の「ちよつとひなびた雰囲気」や「故郷」という言葉との馴染みやすさ、当時近隣に畑が多く、帝釈天のすぐ裏手には江戸川が流れるといったロケーションの良さを挙げています。

そのほかにも、葛飾の人情味あふれ、どこか懐かしい雰囲気を楽しめるまちの魅力が、人を引きつけていることを挙げています。

ら川魚を料理するお店があることも特徴的で、コイ料理やうなぎ料理も楽しめます。帝釈天の板本尊が祀られる帝釈堂や寅さんが産湯をつかったという御神水などを見に行つた後、下町グルメを楽しむのも良いでしょう。

#### ◆「葛飾柴又寅さん記念館」と「山田洋次ミュージアム」

「葛飾柴又寅さん記念館」は寅さん好きにたまらない観光スポットです。平成9年に開館され、映画作品以前の「ガキ大将」時代から第一作目に寅さ



入口では、館名の看板文字の取り付け作業をする寅さんが迎える



「くるまや」のセット再現や生まれも育ちも葛飾柴又コーナーなども展示されている

んが20年ぶりに柴又に戻るまでをイメージした当時のまち並みを、寅さんと妹のさくらの目線で6つのジオラマで紹介しています。

さくら役の女優、倍賞千恵子さんの語りに導かれ紹介する可動式のジオラマで構成され、撮影で実際に使用したセットを大船撮影所から移設して、「くるまや」や本物の活版印刷機を展示したタコ社長の経営する活版印刷工場「朝日印刷所」が再現されています。その展示に映画で見られた絶妙の掛け合いの数々を思い出す人もいます。



山本亭は趣ある書院造に西洋建築を取り入れた和洋折衷の大正建築物。緑豊かな日本庭園が最大の見所



併設している「山田洋次ミュージアム」。映画への思いも感じることができる

う。

なお、平成27年12月にはリニューアルも予定されています。寅さんの鉄道旅をテーマに、かつて金町と帝釈天を結んだ柴又人車の実物大復元模型や寅さんの鉄道旅のシーンを映像で紹介する予定です。

併設されている山田洋次ミュージアムは、『男はつらいよ』だけでなく『幸福の黄色いハンカチ』や『学校』シリーズなど数々の名作を世に出し続けている、山田洋次監督の映画作りへの思いが込められた展示がされており、



とんがり帽子の形状の金町取水塔

都内に唯一残る「矢切の渡し」。川をのんびり渡るのも楽しい



併せて楽しむことができます。

### ◆和洋が建物に融合する山本亭

山本亭は、趣ある書院造に西洋建築を取り入れた和洋折衷の建築が特徴の建造物です。合資会社山本工場（カメラ部品メーカー）の創立者、故山本栄之助氏の住居として大正末期に建てられ、大正12年の関東大震災を期に、浅草の小島町から柴又に移転しました。

当時は洋風建築を取り入れることが富裕層の間で流行しており、その佇まいを今に残す貴重な庭付邸宅として、葛飾区が有形文化財として登録。また、平成15年7月に都選定歴史的建造物として指定を受けています。平成3年4月から一般公開されている山本亭内では、お抹茶も楽しめゆつたりした時間は、

を感じることもできます。

また、葛飾区伝統工芸品コーナーでは、江戸切子や印伝、銅版といった葛飾区の職人が手掛ける伝統の品を購入することもできます（山本亭は、全館工事に伴い、平成27年10月1日から約1年間休館を予定しています）。

### ◆江戸川河川敷、矢切の渡し

寅さん記念館や山本亭のすぐそばには江戸川が流れています。江戸川の雄大な流れを眺めながら、寅さん気分が河川敷を散歩するのも一興です。上流に向かって歩いていくと、都内唯一の渡し船「矢切の渡し」があります。川幅150mを小さな渡し船が往復する風景は、古くから残る日本の原風景を感じることもできるでしょう。

また、渡し船の乗り場からさらに先に進むと、とんがり帽子のユーモラスな姿の金町浄水場の取水塔があり、毎年7月に開催される葛飾納涼花火大会の絶好の撮影スポットとなっています。歩いて散歩するもよし、寅さん記念館に併設されたレンタサイクルセンターで自転車を借りて河川敷のサイクリングロードで少し足をのびして地域全体を楽しむのも良いでしょう。



## 「寅さん」が葛飾・柴又と全国をつなぐ

### 「寅さんサミット」開催

平成27年11月7日・8日、「寅さんサミット」が開催されます。柴又は、昔ながらの風情や人情をまじり全体で大切にしてきました。「原風景」というキーワードで寅さんが歩いた日本各地を結び、映画「男はつらいよ」のロケ地となった地域が一体となってこれを守り、後世に伝えていく取組としていきます。

また、平成26年11月に新小岩公園で初開催となった「かつしかフードフェスタ」では、葛飾区のみならずさまざまな地域の自慢の逸品が集まり、約7万人の来

場者でにぎわいました。柴又地域からは7店舗出店し、参道の店舗からも団子屋、佃煮屋の計3店舗が出店し好評を博しました。今年も参道の店舗を含め地域で4店舗参加する予定です。

そのほか、柴又では、これからも帝釈天や商店街・観光協会などが中心となつて魅力あふれるイベントやお祭りなど多くの観光客が楽しめるような取組が予定されています。多くの観光スポットと、いつ来ても

変わらない昔のままの風景と人情。

これからも葛飾区柴又は日本人の「心のふるさと」として私たちを楽しませてくれるでしょう。

今年も11月21日・22日に新小岩公園で開催される「かつしかフードフェスタ」。昨年は2日間で7万人以上が来場した



### 半日かけて 柴又 を楽しむ ならば...

- 1 柴又駅→参道→帝釈天（参道で草団子ぐし、せんべい、冷やしきゅうりなど買って食べ歩き）
- 2 帝釈天でお参り、おみくじ、お守り購入など
- 3 葛飾柴又寅さん記念館と山田洋次ミュージアムをじっくり見学
- 4 江戸川河川敷と矢切の渡しの散歩
- 5 参道に戻り、鰻重や天井など参道の下町グルメを堪能
- 6 おなかがいっぱいになった後は、参道でのお土産買い歩きや山本亭の見学などがおすすめ

